オリーブ便り Olive News

2021.11.01 No.449

香川大学 医学部附属病院　香川県木田郡三木町池戸1750-1　発行人／病院長　門脇　則光

基本理念　患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

新執行部挨拶

チームで目指す、安心・安全な医療

副病院長（診療･医療安全担当）　杉元　幹史

このたび診療･医療安全担当副病院長を拝命いたしました、杉元幹史です。このような大役を引き受けることになり、身が引き締まる思いです。

病院は病気やけがを良くする、治すところです。しかし医療行為というものは多少なりとも必ず侵襲を伴います。手術や抗がん剤治療はもちろん、採血やレントゲン検査でも同様です。われわれ医療者は常にその医療行為の利益と不利益を天秤にかけ、行った場合のメリットのほうが大きいと考える時にのみ実施します。

しかしどうしても医療は不確実なところがあります。残念ながら、いつも結果がよいとは限りません。そこで可能な限り、望ましくないことが発生するリスクを減らすことがわれわれの使命です。そのためには職員全員、ワンチームで立ち向かうことが必要です。

「正直で逃げない、安心･安全で良質な医療」を皆様にご提供できるよう、精一杯尽力したいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

日本最高の医療を届けるために

副病院長（研究担当）　辻　晃仁

この度、副病院長（研究担当）を拝命いたしました辻　晃仁と申します。これまでは腫瘍内科、がんセンター、がんゲノム医療センターの責任者として、がんに対する最新の治療を提供すべく、断らないがん診療を行ってきました。また、大学病院として四国唯一のがんゲノム医療拠点病院の指定を受け、最先端のがんゲノム医療にも取り組んでまいりました。

当院では、国立がん研究センターなどと多くの国際･国内共同研究を行い、大学病院の中でも有数の経験･実績を持っております。また高度の医療の提供ができる特定機能病院として、香川のみならず中四国の患者さんからの最新医療への要望にもお応えしております。

今後はさらに、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神）、5事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療）のすべての分野で最高の医療を提供できる香川県の“The Hospital”を目指し、患者さんのために大学病院のさらなる質の向上･発展に取り組んでいきたいと考えております。微力ながら力を尽くしていく所存ですので、皆様のサポート、ご意見をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

債務額最大期を迎える大学病院

副病院長（経営･評価担当）　堀井　泰浩

経営･評価担当副病院長として、社会保険委員長を併任する、心臓血管外科の堀井泰浩です。

ひと段落した再開発で病院機能はようやく整備されましたが、これからの数年間が最高額となる債務返還時期を迎え、とても重要な時期に経営を担えとのことで、なかなか厄介な役回りを仰せつかりました。大学自体が法人化させられ、運営費交付金の漸次削減は着々と進行して、学術医療機関であるとはいえ人員の制限は強く、苦しい状況に置かれています。

順調に稼働し始めている新病棟も、策定時の見通しと現在の状況は大きく変化し、後期高齢者人数が最高に達する2025年が目前に迫り、そして労働者人口が急減する2040年と、日本だけでなく人類にとって未曾有の状況を前に、病院自体も今後さらに変容させることが必要となります。

医師となってから一貫して心臓血管外科に専心してきました私に、プロの経営など一朝一夕にできるはずもありませんが、今更ながら勉強しつつ、この重要な時期に、門脇病院長の補佐として粉骨砕身する覚悟です。

新執行部挨拶

臨床教育研修支援を通じて地域医療への貢献を目指して

副病院長（教育･地域連携担当）　**金西　賢治**

10月から新病院長である門脇則光先生のもと、副病院長を拝命いたしました金西賢治と申します。「教育･地域連携」の担当として、専攻医の育成、地域関連病院との連携において大学病院の発展に貢献できるよう心がけますので、今後も変わらぬ皆様のご協力、ご支援よろしくお願い致します。香川大学医学部附属病院は地域の中核病院として、高度な医療の開発や提供を行うと同時に若手医師の育成を通じた地域医療貢献も重要な役割の一つです。臨床教育研修支援部を中心に医学･医療の進歩に貢献できる、高い専門意識を持ち、技術的にも優れた若手医師の育成、また医師も含めたすべての医療スタッフのキャリア育成を活性化させていきたいと考えています。香川大学はこれまで「地域活性化の中核的拠点としての機能強化を目指し、特定の分野においては、世界ないし全国的な教育研究を目指す」ことを基本的な目標に掲げています。地域の活性化なくして日本全体の活性は望めないと考え、県外に転出することが多い若い世代（若手医師も含め）の人々が地元に定着できるような職場環境や定住を希望できるような社会基盤の整備にも医療分野を通して貢献し、大学病院として地域で求められる優秀な人材養成を継続し行える体制作りに尽力していく所存です。

質の高い組織的サービスの提供

副病院長（医療の質管理担当）　**冨山　清江**

医療の質管理担当を拝命しました看護部長の冨山清江と申します。自施設のキャッチコピー“ささえる・つながる・リードする”のもと、多様なヘルスケア・ニーズを持つ患者、ご家族および地域住民の方々に対して、質の高い組織的サービスの提供により組織を発展させることができるよう務めてまいります。医療の質と維持向上のために、さわやかサービス推進およびワーク・ライフ・バランス支援に係わる活動をしております。チームの一員として、職員一人ひとりが笑顔でイキイキと医療・看護サービスを提供できるよう創造的に環境整備を進めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

働きがいのある病院へ　働き方改革　NOW OR NEVER

副病院長（総務担当）　**中島　一浩**

10月1日から、田宮先生からバトンを受けて、門脇病院長の下、新執行部がスタートしました。この1年半、新型コロナウイルス対応を最優先にせざるを得ない状況でしたが、病院スタッフ全員の協力で、香川県や県内の医療機関とも連携して大学病院としての役割を果たしてくることができました。コロナ禍の中、スタッフの皆さんもストレスや不安を感じられる事も多かったと思いますが、力を合わせていただき、本当にありがとうございました。引き続き、ご協力をお願いします。

総務担当の副病院長としては、医師の働き方改革への対応があります。2024年には、医師の時間外労働時間の上限が法律で決められます。勤務状況全体を明確に把握し、対策を検討する必要があります。また、病院スタッフ全職種の働き方改革の機会でもあります。職員が、安心･安全に健全に働ける病院にしていきます。このために、職員の意識改革はもちろん、患者の皆さんを始め、病院にかかわるすべての方のご理解とご協力が必要です。門脇病院長を支えていきますので、よろしくお願いします。

ケーブルTVで放送中

イキイキさぬき健康塾

香川大学医学部附属病院　医療セミナー

詳しくはこちら

11月テーマ　「高齢者の婦人科がん治療はどのようにするのでしょう?」

12月テーマ　「地域でつなぐ安心･安全な出産　ーセミオープンシステムー」

第13回 医学生と医師の卒後キャリア形成に関する情報交換会が開催されました

香川大学医学部附属病院　**ワーク・ライフ・バランス支援室**

9月28日（火）午後6時から、標記情報交換会が臨床講義棟2階にて開催されました。

本会は、香川県医師会の主催で、日本医師会、香川大学医師会ならびに本院の共催及び本学男女共同参画推進室の協賛により、将来の医療を担う医学生や若手医師を対象に、今後のキャリア形成に役立ててもらおうと実施しているものです。医学科4年生の特別講義として対面とオンラインの併用で実施し、学内外から109名（うち学生77名）のご参加をいただきました。

がんセンターの村上あきつ先生の司会のもと、医学部薬理学・西山成教授、社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院総合診療科・課長　西信俊宏先生、本院消化器外科・下村彩香先生、腎臓内科・西岡里香先生から、医師の仕事と生活、キャリア形成や育児の様子などご自身の経験を交えながらそれぞれお話しいただきました。普段なかなか聞くことができない医師の本音や専門を選択した経緯に参加者は熱心に耳を傾け、先生方からは医学の道を進む学生たちへ熱いメッセージをいただき、大変有意義な会となりました。

2021年9月からトリアージ施設の運用を開始

香川大学医学部　**総務課**

本院では、新型コロナウイルス等の感染症の患者さん及び感染症の疑いがある方に対する診療を実施する拠点として、2021年8月30日、文部科学省の助成金により新たにトリアージ施設を整備しました。運用シミュレーションを重ね、9月から使用を開始しています。

本施設は、陰圧切替機能、医療ガス及びポータブル手洗いやポータブルトイレ等の特殊設備を有し、感染症診療の実施拠点のひとつとして活用することを目的としています。さらに緊急時には間仕切りを取り払うことにより、大規模災害等のトリアージ施設としても幅広く活用できます。

当面はコロナ禍を受け、新型コロナウイルス感染症に係る対応のため、感染症の疑いがある方に対し、医師の判断により、外来診療棟ではなく、本施設を使用して診察や検査を行います。

建物は外来診療棟に隣接するように配置しており、感染症の疑いがある方は外来診療棟から入らないため、一般外来患者さん等との動線交差が解消でき、より安全な医療体制が確保できます。

本施設の活用により、本院は地域医療における最後の砦として、引き続き機能・役割を発揮するとともに、大学の教育・研究機能を確保してまいります。

建物外観

ポータブル手洗い、ポータブルトイレ

お月見飾りを設置しました

香川大学医学部　**医療支援課**

秋の夜空の美しい月を眺め今年の収穫に感謝し、豊作を祝う「お月見」。本院では9月15日～9月24日に病院外来中央診療棟1階玄関ホールに「お月見かざり」を飾りました。

夏が過ぎ、涼しくなり始めたこの時期に、夜空に輝く月を見て楽しむのは、日本の秋の風物詩です。是非、ご家族のみなさんや大切な方と、素敵な時間をお過ごしください。

～ゆったりとした気分で
月を眺めてみませんか?～
～来年は獅子舞の音色を聞きながら
月を眺めることができますように～

（財）誠恵会様からご支援をいただいております。

新型コロナウイルスワクチン接種における地域貢献

香川大学医学部　**総務課**

本院は、自治体等が設置する集団接種会場や香川大学職域接種に医療従事者を派遣し、接種の加速化に寄与しました。

○香川県広域集団接種センター
実施期間:令和3年8月2日～9月12日、10月2日、10月3日
派遣人数:延べ110名（医師）

○小豆島町
実施期間:令和3年6月5日～9月19日の土日
派遣人数:延べ40名（研修医）

小豆島

職域接種

○さぬき市
実施期間:令和3年6月27日～7月25日の日曜日
派遣人数:延べ12名（医師）

○東かがわ市
実施期間:令和3年9月2日、9月5日
派遣人数:延べ4名（医師）

○香川大学職域接種
実施期間:令和3年7月19日～8月1日、8月16日～8月29日
派遣人数:延べ283名（医師142名、看護師84名、薬剤師57名）

臨床研究に関するご案内

香川大学医学部　**倫理委員会委員長**
治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院　**臨床研究審査委員会委員長**

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿･血液等の検査試料、生検組織（内視鏡検査で検査のために採取した組織等）又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思いますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究（研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究）に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究（過去の事象について調査する研究）の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL　http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/

イベントカレンダー 2021.11月 予定表

月 日	時 間	場 所	名称及び内容	担 当	連絡先

編集委員会（50音順）　（2021年10月現在）
阿部（看護）、岡内（外来）、金西（副病院長）、亀田（病棟）、木内（検査）、小坂（薬剤）、圖子（管理）、筒井（経営企画）、仁尾（医療支援）、門田（放射線）、横井（医療情報）、横川（総務）、和氣（医事）〔委員長 門脇病院長〕

※この用紙は自然保護のため再生紙を使用しています。